

なからぎ

168号

2004年7月

「宝庫」を無にしないでほしい 「町村合併」で気になること

学 長 井 口 和 起

今年の4月に丹後の6町が合併して、新たに「京丹後市」が誕生した。

私は1980年代の後半から90年代の初めにかけて比較的足繁く峰山町や網野町に出かけたことがある。目的は明治以降の文書調査である。とくに峰山町内の旧村・丹波村の古い公民館と峰山町立図書館、それに網野町郷土資料館とによくお邪魔した。

旧丹波村の文書は、旧公民館の2階の押入れと鍵の所在もわからなくなった大きな古い金庫に、無造作に(といえば地元の方々には失礼なのだが)詰め込まれていた。一方、網野町の場合は、旧木津小学校の本館部分を利用して民俗資料を蒐集・展示する網野郷土資料館が開館したが、その建物の一角に、旧木津(「きつ」と呼ぶ)村の明治以降の行政文書が、地元の方々の努力で年代・項目別に整理・綴じ込まれて保存されていた。ただし、経費の問題もあって建物は保存用に整備されてはいない。保存状態は年々悪くなるだろう。

丹波村では、管理しておられた方のお許しを得て、金庫の鍵を壊させていただき、整理し、目録も作った。また、敗戦直後に当時の兵事係の方がそっと隠して保存され、後に公開された兵事関係文書だけは、峰山町立図書館に所蔵されることになった。

これらの中には、兵事関係文書のように村から応召していく各兵士の家計・宗教・思想・社会運動関係から日常の性行や犯罪歴まで書いて軍管区へ提出した文書の写しもある。相当工夫しないと到底公表・公開できないものもある。たとえ名前を伏しても住所などがわかれば、地元の人なら誰のことかすぐにわかってしまう性格の物である。

しかし、他方で行政文書は、単に当時の行政のあり方だけでなく、村人達の生活そのものを語りかけてくれるものが極めて多い。良くも悪くも生活の記録であり、貴重な遺産である。新たな生活のあり方や「町おこし」「村おこし」の材料の宝庫でもある。

町村合併の中で、これらがこれからどのような扱いを受けていくのだろうか。

置き場に困って廃棄されてしまうのではと心配になる。それに、紙資料はそれなりの保存環境をつくらないと湿度に弱く壊れて行くし、文字も消えていく。虫食いにもなる。

今、全国で「町村合併」が進行しているのだが、こういう問題をどうするかの基本方針もないままに、放置され失われていくのではないかと気になって仕方がない昨今である。

(いぐち かずき)

考古学と電子出版物

図書館運営委員 菱田 哲郎

遺跡の調査成果は報告書という形で出版されることが一般的である。今日、日本においては各都道府県、市町村、あるいはその外郭団体が、工事等で破壊される遺跡の緊急調査をおこない、その報告書を出版している。年間にどの程度出版されているのかを正確に把握することさえ困難であるが、奈良文化財研究所の報告書についてのデータベースを調べてみると、3000冊を超す報告書が1年間に刊行されていることがわかる。これらの報告書から、自らの研究テーマにあった資料を探すこと自身、たいへんな労力を要することが理解できよう。本学史学科にもこれらの報告書の一部が寄贈されてきており、学生たちが手分けして何とか整理をして本棚に並べるのがやっとである。

さて、最近の動きとして、この考古学の報告書や図録について、電子出版物に置き換える自治体が出てきた。これは主として紙の印刷物の場合に必要となる印刷費をなくし、CDの実費で済ませるといった経費節減策ともとれるが、一方、世の中のIT化に即した戦略でもある。ただし、電子出版物といっても内容はまちまちであり、紙の報告書をそのままPDF化した安直なものから、写真画像や図面へ簡単に

リンクでき、比較や参照が紙の本よりもはるかにたやすくできるように工夫したものもある。後者の場合であっても、一覧性はまだ不十分で、たとえば紙の本であればパラパラとめくってみることが可能であるが、その感覚で電子出版物を斜め読みすることはまだまだ難しい。

考古学の電子出版物のメリットとして、埋め込まれた図面がCADの共通フォーマットのような汎用データで作成されている場合、それをコピーして再利用することが容易になることが挙げられる。紙の報告書の場合、同じものの図面であっても、縮尺も異なれば表現も異なっている場合が多いので、これを集めて一覧できる図を作成する際に、縮尺を合わせた上で、再び製図することが必要である。ところが共通のフォーマットのものであれば、縮尺の変更や表現の統一が簡単であるので、異なる出版物から図を寄せ集めて加工するといったことがたやすくなる。これまで「コピー考古学」と言われたように、報告書をコピーして切り貼りして論文を作成するといったやり方が学生の卒論では一般的であったが、「カット&ペースト考古学」といったものになる日が来るかもしれない。

考古学の報告書は専門的な内容であるため、印刷部数がきわめて少なく、販売されることがあってもすぐに品切れになる場合が多い。なので、必要な報告書をすべて買い揃えようとする研究者や学生はまず皆無である。多くの場合、地域の報告書がまとまっている図書館に向いて閲覧することになる。京都府下の遺跡の場合、総合資料館がたいへん便利である。しかし、手を尽くしても遠隔地の遺跡やマイナーな調査団体の報告書に行き当たらないこともしばしば起こる。このような点を解



考古学関係の電子出版物の実例

消す上でも電子媒体は有効であり、たとえば報告書の内容を各市町村のホームページからダウンロードできるようになれば、報告書探しにかかる手間を大いに省けるものと期待できる。しかし、このような場合、やはり著作権の保護が重要性を帯びてくるだろう。ただ、遺跡の調査データは、破壊された遺跡の「記録保存」という性格をもっており、公共性がきわめて高いものである。したがって、市民が調査データにたやすくアクセスでき、その配布を受けられるようになることは、限られた機関に紙の報告書を送付している現状よりも望ましいことは言うまでもなからう。

ここまで、調査結果の享受者として、考古学の電子出版物について述べてきたが、実は私たちも発掘調査をおこなう主体の一つであり、これまでもその成果を紙の報告書の形で公表してきた。上述してきたような電子出版物を

視野に入れると、当然、私たちの報告書作成作業にも変化が求められてくる。たとえば製図作業を丸ペンやロットリング(製図ペン)でおこなうのではなく、コンピューター上でCADソフトや描画ソフトを用いておこなうことが求められてくる。そして、遺跡の図面も、国土座標や経度緯度を用いてGIS(地理情報システム)上に展開するといったやり方が一般化しつつある。かくして、この1、2年、わが考古学研究室のIT化が否応なく進んだというのが実態である。「考古学実習」の授業に一人一台のパソコンが必要になるとは、10年前に一体誰が予想し得たであろうか。

本学図書館も電子ジャーナルへの取り組みがはじまっていると聞いている。このような動きに無関心ではられない今日このごろである。

(ひしだ てつお : 文学部助教授)

平成15年度府立大学関係者著書等寄贈リスト

下記のとおり寄贈を受けました。図書館2階閲覧室「府大コーナー」に配架していますのでご利用下さい。

寄贈者等	書名	発行者(社)	刊年
赤瀬 信吾氏(文学部教授)ほか	岩波講座 文学4 詩歌の饗宴	岩波書店	2003
野間 正二氏(文学部教授)	『キャッチャー・イン・ザ・ライ』の謎をとく	創元社	2003
水本 邦彦氏(文学部教授)	草山の語る近世 日本史リブレット52	山川出版社	2003
榎木 謙周氏(文学部教授)ほか	新修茨木市史 第四巻 資料編 古代中世	茨木市史編さん委員会	2003
渡辺信一郎氏(文学部教授)	中国古代の王権と天下秩序 - 日中比較史の視点から -	校倉書房	2003
渡辺信一郎氏(文学部教授)	北朝財政史の研究 - 『魏書』食貨志を中心に - (H11~14年度科研費補助金研究成果報告書)		2002
河村 貞枝氏(文学部教授)ほか	イギリス近代史 [改訂版]	三ネルヴァ書房	2003
吉田 宏志氏(文学部教授)ほか	朝鮮儒林文化の形成と展開に関する総合的研究 - 平成11年度~14年度科学研究費補助金基盤研究(A01)研究成果報告書		2003
藤原 英城氏(文学部助教授)ほか	韓国学術振興財団基礎学問育成支援課題第2次国際学術大会発表要旨集		2004
浅井 学 氏(文学部助教授)	ジョイスのからくり細工『ユリシーズ』と『フィネガンズ・ウェイク』の研究	アポロン社	2004
加藤 文雄氏(文学部助教授)ほか	シュトルム文学新論集(日本シュトルム協会編)	鳥影社	2003
岡本 隆司氏(文学部助教授)ほか	中国近代化の動態構造	京大大学人文科学研究所	2004
岡本 隆司氏(文学部助教授)ほか	梁啓超年譜長編 第一~二巻 丁文江・趙豊田編/島田虔次編訳(全五巻 発行毎に寄贈予定)	岩波書店	2004
安達 敬子氏(文学部助教授)ほか	歌論歌学集成 第12巻	三弥井書店	2003
高原 正興氏(福祉社会学部教授)ほか	社会病理学講座第 巻病める関係性-ミクロ社会の病理-	学文社	2004
高原 正興氏(福祉社会学部教授)	非行と社会病理学理論	三学出版	2002
吉岡真佐樹氏(福祉社会学部教授)ほか	新・教育学 MINERUVA TEXT LIBRARY 26	ミッドガル書房	2003
武田 公子氏(福祉社会学部助教授)ほか	Basic 現代財政学 [新版] 有斐閣ブックス402	有斐閣	2003
武田 公子氏(福祉社会学部助教授)	ドイツ自治体の行財政改革	法律文化社	2003
武田 公子氏(福祉社会学部助教授)ほか	雇用政策と公的秩序の交錯	お茶の水書房	2002
武田 公子氏(福祉社会学部助教授)ほか	市町村合併の幻想	自治体研究社	2003
武田 公子氏(福祉社会学部助教授)	ドイツにおける分権化と自治体行政改革(H12~14年度科研費補助金研究成果報告書)		2003
玉井真理子氏(社会学非常勤講師)ほか	ジャック・ローラー - ある非行少年自身の物語 -	東洋館出版社	1998
中坊 幸弘氏(人間環境学部教授)	栄養科学シリーズNEXT 応用栄養学	講談社サイエンティフィック	2003
木戸 康博氏(人間環境学部助教授)			

寄贈(著)者等	書名	発行者(社)	刊年
木戸 康博氏(人間環境学部助教授) 中坊 幸弘氏(人間環境学部教授)	栄養科学シリーズNEXT 基礎栄養学	講談社サイエンティフィック	2003
大谷貴美子氏(人間環境学部助教授)ほか	図説 野菜新書	朝倉書店	2003
大谷貴美子氏(人間環境学部助教授)ほか	栄養科学シリーズNEXT 調理学実習	講談社サイエンティフィック	2003
宮崎 猛氏(農学研究科教授)	グリーンツーリズムと日本の農村：環境保全による村づくり ハングル翻訳本		2002
田中 和博氏(農学研究科教授)ほか	森林GIS入門—これからの森林管理のために—第2刷	日本林業技術協会	2003
池田 武文氏(農学研究科教授)ほか	樹木環境生理学 現代の林学 13	文永堂	2002
渡部 邦彦氏(農学研究科助教授)ほか	プロテインエンジニアリングの基礎 CMCテクニカルライブラリー144	シーエムシー出版	2003
今井佐恵子氏(農学研究科院生)	高タンパク質摂取によるラット肝セリン脱水酵素の遺伝子と機能発現ならびに血中遊離アミノ酸またはホルモンの状態に関する研究(博士学位論文)		2003
高橋 克夫氏(農学研究科院生)	尿素/ポリエチレングリコール/アセトニトリル存在下におけるグリコアミラーゼ反応のメカニズムに関する研究(博士学位論文)		2003
長谷 純宏氏(農学研究科院生)	イオンビーム照射で得られたシロイヌナズナfrill 1 突然変異体の形体遺伝学的ならびに生化学的解析(博士学位論文)		2003
江波戸宗大氏(農学研究科院生)	アトラジンおよびリニロン土壌吸着(博士学位論文)		2003
上田 明良氏(農学研究科院生)	カシノナガキクイムシの集中攻撃システムの解明(博士学位論文)		2003
塚原 隆充氏(農学研究科院生)	離乳期子ブタの大腸発酵異常に起因する下痢発症機序の解明と、その回復に関する研究(博士学位論文)		2003
足立 暉氏(卒業生)	平家鎮魂の旅 東山道・近江の巻	サンライズ出版社	2003
皇 邦子氏(卒業生)	歌集『冬の花火』	短歌新聞社	2003
寺沢 光世氏(卒業生)ほか	天草代官鈴木重成・繁辰関係史料集	鈴木神社事務所	2003
今村 郁子氏(卒業生)	歌集『雪のさんた・まりあ』磐村むむ(本名今村郁子)著	砂子屋書房	2003
富澤 公子氏(事務局職員)	平成14年度夢のある高齢期を迎えるための食生活支援・提案事業報告書・京都府立大学健康科学セミナー - 東あかね氏(人間環境学部教授)編集・ほか	夢のある高齢期を考える京都プロジェクト	2003
(財)京都府立大学学術振興会	京都府立大学桜楓講座～特別企画「2000・2001」～講演ノート	京都府立大学	2003
(財)京都府立大学学術振興会	京都府立大学の研究活動と生涯教育 リカレント講座	京都府立大学	2003

本との確かな出会いを ～予約申込・リクエストへのご案内～

「本が読みたいなあ」と思って図書館まで来たのに、お目当てのものが見つからない。そんな時、どうしますか？あきらめて、「まっ、仕方ないか」と帰っている方が多いのではないのでしょうか？

人間、あきらめが肝心ではありません。特に図書館では、その言葉は当てはまりません。「でも、書架に本がないんだから仕方ないんじゃないか」と思われるかもしれませんが、いろいろ方法があるのです。全国の大学図書館の総合目録であるWebcatを検索して、近くの大学へ行く(事前手続きが必要ですので、詳細は図書館カウンターへ)、図書館を通じて他大学等から図書や論文を取寄せる、あるいは、近くの公共図書館を利用するなど、ケースバイケースです。今回は、その中の予約とリクエストについて説明します。

1. 予約申込み

貸出中の図書が返却されたら次に借りたい、という時に使います。「もう返却されたかなあ」と何度も書架をのぞきに来なくても、また、タッチの差で他の人に貸し出されてしまった、という心配もありません。予約された図書は、返却されれば、図書館のカウンターに取り置きをして、予約者に連絡します。

また、雑誌の最新号が届いた時に連絡して欲しい時にも利用してください。

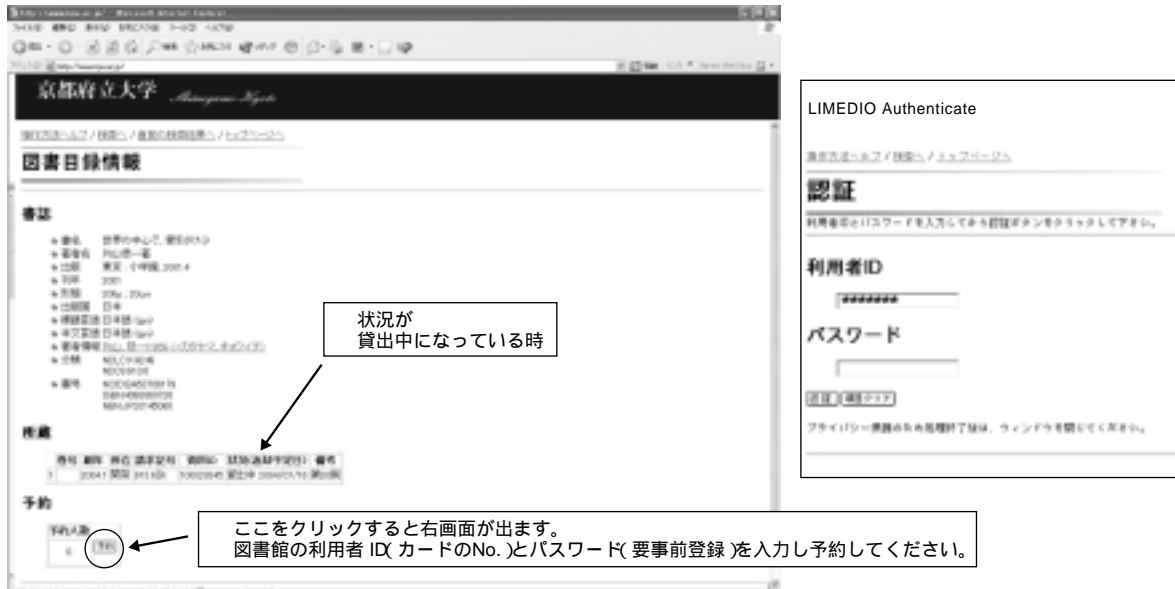
図書館のカウンターで予約する
カウンターにあるブルーの【資料予約カード】(図)を使います。

図書のタイトル(資料名)、予約者の氏名、連絡先はもちろん、資料ID、返却予定日をなどの必要事項を記入して、カウンターの職員に渡してください。なお、雑誌の最新号の予約にも【資料予約カード】をご利用ください。

インターネットを使って予約する
図書館に来なくても予約がかけられる方法があります。OPACを検索して、**所蔵**の内容に“貸出中”の表示が出れば、画面の下の方に**予約**という項目が出てきます。これをクリックして、図書館の利用者ID(カードのNo.)とパスワードを入力すれば完了です。

図

資料予約カード		受付日
貸出中の図書が返却されたら借りたい時		
雑誌の最新号が到着したら連絡して欲しい時		
資料名		返却予定日
図書の場合、資料ID)	
学部	回生	氏名
図書館利用カードID	連絡先	
		受付者
***** 図書館記入欄 *****		
返却予定日	貸出者ID	
備考(督促状況等)	処理者	



図

図書館利用パスワード登録申込書

登録年月日: _____

図書館のHPから学外への論文の取り寄せ依頼や貸出中の資料の予約をするために、下記のとおりパスワードの登録をします。

注意:
 ・パスワードは英数(小文字半角)4文字以上7文字以下で決めてください。
 ・コンピュータの夜間処理の関係で、利用できるのは登録の翌日から(夜明け以降)となります。

利用者ID: パスワード:

パスワードを持っていない方は事前に図書館で利用カードのパスワードの登録をしてください。

カウンターに【図書館利用パスワード登録申込書】(図)があります。

利用される方が自分で考えたパスワード、半角英数4文字以上7文字以下(アルファベットのみでも、数字のみでも、両方入っていても字数の範囲内ならOK)を図書館で登録します。なお、図書館システムの関係で、登録と同時に利用することができません。翌日の朝、明るくなってからご利用ください。

このパスワードと言うのは、学外からの論文のコピーの取寄せ依頼をHPから行うために登録したパスワードでOKです。こんなことにも使えるのです。ぜひ活用してください。

2. リクエスト

図

図書館に読みたい本の所蔵がない時(事前に必ず図書館HPの図書検索、あるいはカード目録で所蔵の有無を確認してください)、学生希望図書、ということでリクエスト(購入希望)することができます。京都府立大学後援会の予算の一部が、そのために当てられています。リクエストで入った図書は、みなさんの直接の要望が反映されたものということで多くの利用があります。「自分だけが使うのだから申し訳ない」と遠慮せず、どんどんリクエストしてください。みなさんの声が図書館の資料の充実にもつながります。

希望図書申込み用紙

.....年 月 日

学部・学科	回生	氏名:
図書館利用カードID	連絡先	

*わかる範囲で書いて下さい。

書名	著者	出版年	出版社	定価
				円

まず、OPAC・目録カードで、図書館所蔵の有無を確認して下さい。洋書は原則として国内在庫とします。データが正確でない注出来ません(特に出版社)。雑誌等は対象外とします。無記名の申込みはご希望に沿えません。

所蔵の有無	有・無	発注: 月 日	納入: 月 日・所要金額	円	品切れ
-------	-----	---------	--------------	---	-----

2003年度で176冊の図書がこの制度によって蔵書となりました。2004年4月以降、既に41冊(6月17日現在)の図書が購入されています。

図書館の2階閲覧室の入り口(ロッカー室へ入る仕切り附近)に【希望図書申込み書】(図)があります。

資料名、発行所など本に関するできるだけ多くの情報を記載してください。学部氏名連絡先等を記入し、赤紫のポストに入れるか、カウンターの職員にお渡しください。その都度発注します。出版社等の事情で納入期間はまちまちですが、早ければ数日でお届けできます。図書館で受入処理が終わり次第、カウンター内に取り置き、リクエストされたご本人に連絡します。

(図書館閲覧係記)

図書館日誌

平成16年度第1回 図書館運営委員会開催報告

今年度第1回図書館運営委員会が6月9日合同会議室棟第1会議室で開催されました。新館長の挨拶、新旧委員の自己紹介の後、前年度の事業報告および今年度事業計画について議案に基づき事務長より説明が行われた。事業報告では、追加予算で参考図書を中心に約300冊購入、遡及入力で約5,500件を処理、新規購入図書が厳しい中で一定の新鮮な資料を補充できたこと、情報化基盤必須の図書館分遡及入力が一定進んだことが報告された。利用関係では、貸出冊数規定を3冊から6冊に改訂し、学生から喜ばれていること、15年度利用実態は、貸出者数延べ8,854人、貸出冊数14,868冊で前年比それぞれ17%、11%増になったことが報告された。また、ワーキンググループを設け、研究室図書の遡及データ化ワーキングを3回、電子ジャーナルの導入ワーキングを4回、計7回開催し、京都府立大学情報化基盤5ヵ年計画を策定、運営委員会の承認を経て予算要求したが措置されなかったこと、電子ジャーナルではアンケートを実施し、その結果・分析は未定稿なので継続の必要があることが報告された。

事業計画では、予算面で洋雑誌の毎年の高騰を中心として図書購入予算は、極めて厳しく、新規購入予算は30万余しかなく、辛うじて、院整備費で1学部当り40万円の選書ができる状態だが、この執行計画を提案、併せて、新規図書購入に支障がでている下で、予算要求をしつつも洋雑誌購入タイトルの見直しも提案された。また、ワーキンググループの継続が提案された。質疑では、図書購入予算、電子ジャーナル、ワーキングについていくつかの応答が交わされた。議案は原案どおり承認された。

図書館運営委員会委員名簿

(平成16年4月1日現在)

附属図書館	館長 (人間環境学部教授)	春山 洋一	委員長
文学部	教授 助教授 助教授	母利 司朗 青木 博史 菱田 哲郎	W. G
福祉社会学部	教授 助教授 講師	津崎 哲雄 武田 公子 森下 正修	W. G
人間環境学部	教授 助教授 講師	大槻 耕三 河西 立雄 リントカト江美	W. G
農学研究科	教授 助教授 講師	宮崎 猛 山田 秀和 辻山 彰一	W. G
附属図書館	事務長 係長	梅村 健一 久保 直弘	

(図書館のW.Gは館長、事務長、職員2名)

カレンダー

2004年7月							2004年8月							2004年9月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3	1	2	3	4	5	6	7				1	2	3	4
4	5	6	7	8	9	10	8	9	10	11	12	13	14	5	6	7	8	9	10	11
11	12	13	14	15	16	17	15	16	17	18	19	20	21	12	13	14	15	16	17	18
18	19	20	21	22	23	24	22	23	24	25	26	27	28	19	20	21	22	23	24	25
25	26	27	28	29	30	31	29	30	31	* 閲覧室休室				26	27	28	29	30		

【 ~ 7/5(月) 通常貸出実施 (貸出冊数6冊以内、返却期限: 2週間以内)】	【 ~ 8/31(火) 夏休み長期貸出実施 (貸出冊数6冊以内、返却期限: ~ 9/14(火))】	【 9/1(水) - 通常貸出実施 (貸出冊数6冊以内、返却期限: 2週間以内)】
【 7/6(火) ~ 8/31(火) 夏休み長期貸出実施 (貸出冊数6冊以内、返却期限: ~ 9/14(火))】	【 8/9(月) ~ 20(金) 2階閲覧室を休室(蔵書点検のため)この間、図書の返却は図書館1階西側職員通用口横の[図書返却ポスト]をご利用ください】	【 ~ 9/14(火) 夏休み長期貸出図書返却期限】
【 7/19(月) 海の日 】		【 9/20(月) 敬老の日 】
		【 9/23(木) 秋分の日 】

開館時間等			
通常開館	9 : 00 - 20 : 00		
夏期休業	7/20 ~ 9/6	9 : 00 - 16 : 45	夏期休業 7/20 ~ 9/6 9 : 00 - 16 : 45
夏期休業	7/20 ~ 9/6	9 : 00 - 16 : 45	夏期休業 7/20 ~ 9/6 9 : 00 - 16 : 45
休館日	土・日・祝祭日		